

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中野市

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな 地域づくり	中野市多目的森林公園再整備事業 (木橋修繕工事・うぐいす橋)
事業費 924,000 円 (うち支援金: 616,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

市民の憩いの場となる森林空間整備が求められている。現在、市内にも憩いの空間となる森林空間があるが、木橋等の経年劣化が進んでおり、森林空間内の遊歩道としての安全性及び機能が低下している。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

森林空間内の木橋の修繕を実施することにより、市民の憩いの空間をより、安全または機能的に、利用できる場にてできる。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 ぼんぼこ杉の森うぐいす橋

(2) 対象者 ぼんぼこ杉の森利用者

(3) 実施方法 うぐいす橋の修繕による整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

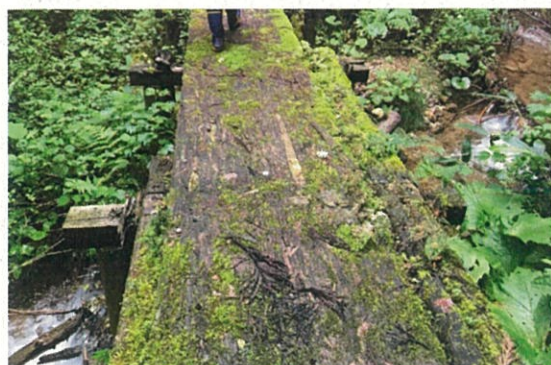
①全体計画 (令和 3～令和 4 年度)

令和 3 年度以降は引き続き間山温泉公園森林空間整備事業等を実施予定。(林内車道不陸修繕・緩衝帯整備等)

②令和 3 年度実績

うぐいす橋の修繕

作業前



作業後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

本事業を実施することで、森林空間内の利用にあたっての安全性や機能性を高めることができ、地域住民等がより快適に森林空間に触れ合うことができる。

また、近くには、市外からの来客があるぼんぼこの湯があり、そのため、より広域的に、当市外の方にも森林に触れ合う機会を提供できる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

今年度、うぐいす橋の修繕を実施した後、引き続き、林内車道不陸修繕、緩衝帯整備等、さらなる整備を予定している。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

うぐいす橋の修繕を行うことで、より安全性や機能性が増し、かつ美しく整備された森林空間内の遊歩道等を市民等に提供できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林空間の木橋修繕を実施したことにより、間山温泉公園森林内の遊歩道を保全することができた。

(2) 課題

間山温泉公園森林内に整備が必要な遊歩道は存在することから、今後も施業を行うことが望ましい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

森林公園内歩道橋修繕及び緩衝帯整備を予定。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中野市

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	中野市多目的森林公園再整備事業 (木橋修繕工事・うぐいす橋)
事業費 924,000 円 (うち支援金: 616,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

市民の憩いの場となる森林空間整備が求められている。現在、市内にも憩いの空間となる森林空間があるが、木橋等の経年劣化が進んでおり、森林空間内の遊歩道としての安全性及び機能が低下している。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

森林空間内の木橋の修繕を実施することにより、市民の憩いの空間をより、安全または機能的に、利用できる場にできる。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 ぼんぼこ杉の森うぐいす橋

(2) 対象者 ぼんぼこ杉の森利用者

(3) 実施方法 うぐいす橋の修繕による整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 3～令和 4 年度)

令和 3 年度以降は引き続き間山温泉公園森林空間整備事業等を実施予定。(林内車道不陸修繕・緩衝帯整備等)

②令和 3 年度実績

うぐいす橋の修繕

作業前



作業後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

本事業を実施することで、森林空間内の利用にあたっての安全性や機能性を高めることができ、地域住民等がより快適に森林空間に触れ合うことができる。

また、近くには、市外からの来客があるぼんぼこの湯があり、そのため、より広域的に、当市外の方にも森林に触れ合う機会を提供できる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

今年度、うぐいす橋の修繕を実施した後、引き続き、林内車道不陸修繕、緩衝帯整備等、さらなる整備を予定している。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

うぐいす橋の修繕を行うことで、より安全性や機能性が増し、かつ美しく整備された森林空間内の遊歩道等を市民等に提供できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林空間の木橋修繕を実施したことにより、間山温泉公園森林内の遊歩道を保全することができた。

(2) 課題

間山温泉公園森林内に整備が必要な遊歩道は存在することから、今後も施業を行うことが望ましい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

森林公園内歩道橋修繕及び緩衝帯整備を予定。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中野市

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	中野市多目的森林公園再整備事業 (木橋修繕工事・ぼんぼこ橋)
事業費		915,200 円 (うち支援金: 426,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

市民の憩いの場となる森林空間整備が求められている。現在、市内にも憩いの空間となる森林空間があるが、木橋等の経年劣化が進んでおり、森林空間内の遊歩道としての安全性及び機能が低下している。

(2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

森林空間内の木橋の修繕を実施することにより、市民の憩いの空間をより、安全または機能的に、利用できる場にする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 ぼんぼこ杉の森ぼんぼこ橋
- (2) 対象者 ぼんぼこ杉の森利用者
- (3) 実施方法 ぼんぼこ橋の修繕による整備
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 3～令和 4 年度)

令和 3 年度以降は引き続き間山温泉公園森林空間整備事業等を実施予定。(林内車道不陸修繕・緩衝帯整備等)

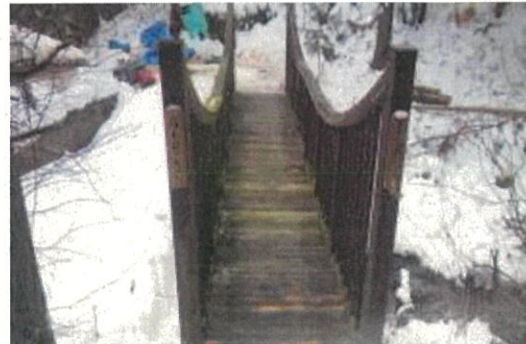
②令和 3 年度実績

ぼんぼこ橋の修繕

作業前



作業後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

本事業を実施することで、森林空間内の利用にあたっての安全性や機能性を高めることができ、地域住民等がより快適に森林空間に触れ合うことができる。

また、近くには、市外からの来客があるぼんぼこの湯があり、そのため、より広域的に、当市外の方にも森林に触れ合う機会を提供できる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

今年度、ぼんぼこ橋の修繕を実施した後、引き続き、林内車道不陸修繕、緩衝帯整備等、さらなる整備を予定している。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

ぼんぼこ橋の修繕を行うことで、より安全性や機能性が増し、かつ美しく整備された森林空間内の遊歩道等を市民等に提供できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林空間の木橋修繕を実施したことにより、間山温泉公園森林内の遊歩道を保全することができた。

(2) 課題

間山温泉公園森林内に整備が必要な遊歩道は存在することから、今後も施業を行うことが望ましい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

森林公園内歩道橋修繕及び緩衝帯整備を予定。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯山市

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした 力強い産業づくり	森林づくり推進支援金 (菜の花公園木製ベンチ製作委託)
事業費 946,000 円 (うち支援金: 946,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

森林の価値について、当地域材の低価値による関心の低さから、森林の持つ水源涵養性や山地災害防止機能など、森林の持つ重要性が忘れられ、森林の保全が放置されつつある。

(2) 本事業の目的

飯山市の大イベントのひとつ、菜の花まつり会場の菜の花公園に県産材を使用したベンチを導入することによって、県産材の良さをアピールし、県産材の普及啓発を促す。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所: 飯山市瑞穂地区 菜の花公園

(2) 対象者: 市民、観光客

(3) 実施方法: 県産材ベンチ及び解説看板の導入

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元～令和 5 年度)

令和元～3 年度で菜の花公園全体に県産材ベンチ及び解説看板を導入する

②令和 3 年度実績

県産材ベンチ 8 基



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

県産材ベンチを観光地へ設置することにより、市民だけでなく観光客に対しても県産材の普及ができています。

(2) 継続性

菜の花公園では毎年、春の菜の花まつりだけでなく、夏はひまわり畑に姿を変え県内外から景観を楽しみに多くの方が訪れる。そのなかで県産材ベンチを設置し、長期間にわたり利用していただく中で、県産材の魅力を発信できています。

(3) 普及性

市の観光名所である菜の花公園に県産材ベンチを設置することで快適な公園利用を確保し、公園を訪れる大勢の方に県産材のPRができています。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

県産材ベンチは菜の花公園を訪れる多くの方に利用いただいております。県産材の良さを普及できています。また、ベンチと併せて事業PR看板を設置しており森林税の有効活用についてもPRが出来ています。

(2) 課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍以前と比較し菜の花公園を訪れる人数は減少しています。より多くの方に県産材の普及啓発のために、コロナ禍でも誘客があり、菜の花公園との導線のある施設への県産材製品の導入を検討する必要があります。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

県産材製品の設置場所を菜の花公園から国道117号線沿いにある道の駅「花の駅 千曲川」に変更したい。上記道の駅は拡張工事を実施中で、更なる誘客を図っている。

その施設に県産材製品を導入することでより多くの方に県産材のPRを図りたい。

花の駅千曲川は菜の花公園から1km圏内に位置し、菜の花公園に訪れた観光客も多く利用の見込める施設となっており、これまで設置した県産材製品と併せ相乗的な普及啓発が見込める。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

山ノ内町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	志賀高原スキー場森林再生事業
事業費		2,435,070 円 (うち支援金: 1,224,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

志賀高原には閉鎖されたスキー場があり、スキー場の所有者が森林再生をしていなく、放置された状態だと森林機能が発揮されないため、森林の再生が望まれる。

(2) 本事業の目的

放置された森林の再生することで森林の多彩な機能の復活を目的とする。また、森林の再生を目的とした植樹を実施するに当たり、地元住民を始めとし、広域的に参加を呼びかけ、森林環境学習の場として提供するとともに、森林づくり活動の支援を行う。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 山ノ内町 (志賀高原 蓮池スキー場)

(2) 対象者 地元住民、地元小学生、一般参加希望者 (県内参加者等)

(3) 実施方法 植樹面積: 0.15ha 樹種: 14 種 植栽本数: 4,000 本を植樹

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 3 年度~5 年度)

志賀高原内で閉鎖されたスキー場に、毎年 0.15ha、樹種 14 種、植栽本数約 4,000 本を植樹していく (令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症のため規模縮小)

②令和 3 年度実績 地元住民、地元小学生、一般参加希望者 (県内参加者等) により、植樹面積: 0.15ha 樹種: 14 種 植栽本数: 約 4,000 本を植樹。



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

植樹することにより森林を再生することができた。

また一般の方とともに植樹を行うことで森林環境学習効果が期待できた。

(2) 継続性

今後も毎年継続的に植樹していくことによって、森林の再生を図っていく。

(3) 普及性

小学生及び高校生の森林環境学習の場として活用できた。

本事業を契機として、ユネスコスクール(中野西高校)の植樹した苗のモニタリング調査を実施する。

また、森林再生をすることにより、環境保全や治山効果が発揮される。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

閉鎖されたスキー場を森林に再生することで、水源林涵養・災害防止・景観形成など環境保全の観点から森林の大切さを周知することができた。

(2) 課題

蓮池会場が今年終了となり、来年以降の植樹地をどこにするか検討が必要。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

植樹イベントを軸として、地元小学生や高校生の環境学習プログラムが構築されたことにより、10年・20年といった長いスパンでの活動が見込まれる。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第15号)

令和3年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木島平村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	道の駅ファームス木島平 木製遊具整備事業 (二人用ブランコ・ウッドマウンテン・木製テーブル・イスの導入)
事業費 660,000円		(うち支援金: 482,000円)

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

森林の価値について、当地域材の低価値による関心の低さから、森林のもつ水源涵養性や山地災害防止機能など、森林の持つ重要性が忘れられ、森林の保全が放置されつつある。

(2) 本事業の目的

県産材の良さをアピールし、県産材の普及啓発を促すこと。また、若い地元大工さんの技術向上や新たな分野への挑戦を行う。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 木島平村道の駅ファームス木島平

(2) 対象者 木島平村民及び観光客

(3) 実施方法 備品購入(二人用ブランコ・ウッドマウンテン・木製テーブル・イスの設置)

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和3年~令和5年)

令和3年度 木製遊具整備事業

令和4年度以降 未定

②令和3年度実績 木製遊具整備事業

(二人用ブランコ・ウッドマウンテン・木製テーブル・イス)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

地域住民や観光客が、実際に間伐材利用の木製遊具等に触れることで森林整備の必要性や木材の良さ等を実感できる。さらに森林税 PR プレートの設置により、森林税の認知度を上げることができる。村内の森林所有者においては、間伐に対する意識の向上が図られ、間伐実施面積の増加が期待できる。また、若い地元大工さんの技術向上にも繋がる。

(2) 継続性

道の駅ファームス木島平は、そば屋、カフェ、直売所など老若男女、集う公園であり、国道沿いで交通量も多く、あらゆる世代に広く周知できる。

(3) 普及性

駐車場などはアスファルトなどの人工物が目に入ることもあるなか、国道沿いの芝生広場に木製遊具を設置することで、森林整備の必要性や間伐材の利用促進し、地域住民等への森林整備に対する意識の高揚と県産材の利用促進を図る。また、若い地元大工さんが木製遊具を試作し、設置することにより、若者世代が県産材へ興味を持つという、意識付けにも繋がる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

道の駅ファームス木島平は、そば屋、カフェ、直売所など老若男女、集う公園であり、県産材の良さをアピールし、県産材の普及啓発をあらゆる世代に広く周知できた。また、若い地元大工の技術向上、自信にも繋がった。

(2) 課題

森林の価値、県産材の良さをアピールし、県産材の普及啓発を促すには、まだまだ身の回りの県産木材製品は多いとは言えない。今後も県産材の普及を啓発することで、当地域材の価値、森林のもつ水源涵養性や山地災害防止機能など、森林の持つ重要性が理解され、森林の保全が図られる事業を実施しなくてはならない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も県産材を利用した製品を多くの人が集う場所などに効果的に整備し、県産材の普及啓発に努める。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

野沢温泉村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	県産材利活用事業
事業費		517,000円 (うち支援金:515,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

野沢温泉村内の公共施設では県産材を利用した建物が少なく、地域の住民も県産材を利用したいという意識が低い。

よって、県産材や市町村産材の利用を促進するために、県産材の良さを普及する必要がある。

(2) 本事業の目的

県産材を利用したベンチ及び商品棚を公共の場に設置することにより、地域住民や観光客に県産材の良さをアピールすることで、県産材の普及・啓発を促すことを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

道の駅野沢温泉公園広場に県産材利用ベンチを 5 基設置

道の駅野沢温泉農林産物直売所に木製商品棚を 2 台設置

(2) 対象者

野沢温泉村民及び野沢温泉村への観光客

(3) 実施方法

県産材のベンチ及び商品棚を公共施設に設置

県産木材の解説パネルの設置

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 3～4 年度)

・令和 3 年度 県産材活用事業

・令和 4 年度 県産材活用事業(予定)



道の駅野沢温泉公園広場



県産材表示プレート



直売所商品棚(大)



直売所商品棚(小)

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

公共性のある場所に県産材を利用した木製ベンチ及び商品棚を設置することで、県産材の普及が図れる。

(2) 継続性

森林づくり推進支援金により、県産材製品を設置して普及啓発を行っている。設置事業を継続することにより、住民や観光客への注目を集めて普及啓発を効果的に行うことができる

(3) 普及性

公共施設や主要観光場所に設置することにより、地域住民とともに、観光客にも県産材の普及・啓発を図ることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

今年度は長野県産材を利用したベンチ5基と直売所の商品棚2台を設置した。多くの観光客が訪れる道の駅で事業を実施したことにより、効果的に長野県産材の普及・啓発を行うことができた。

(2) 課題

村内で長野県産材を利用したいという意識が低いため、今後も県産材を普及する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

県産材製品の設置を引続き実施し、村民及び観光客への県産材のPRを継続していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

栄 村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費 990,000 円 (うち支援金: 902,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地区の里山は、有害鳥獣の出没が多く、農林業被害や人的被害が発生している。有害鳥獣の移動経路となっている林や藪が里山近くに繁茂している。地区・所有者での能力には限界があり、除伐することができない。

(2) 本事業の目的

緩衝帯を整備することで、住宅地や農地において有害鳥獣の出没を抑制し、農林業被害や人的被害の防止を図りたい。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 箕作地区
- (2) 対象者 地元住民
- (3) 実施方法 栄村森林組合に委託
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元年 ~ 5 年度)

全村対象

令和元年度~令和 5 年度 15 ha

②令和 3 年度計画

0.13 ha の緩衝帯整備

施業前



施業後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

山林地と住宅地や農地の山林の除伐を行うことで、野生鳥獣が潜む場所が無くなり、住宅地や農地に近づきにくくすることができる。これにより農林業被害や人的被害を予防する効果が期待できる。

(2) 継続性

持続的な緩衝帯整備を行い、野生鳥獣による住宅地や農地への出没減少が期待できる。これにより地域住民の安心、安全な暮らしの確保につながり、被害の防止効果も期待できる。

(3) 普及性

緩衝帯整備により、住宅地や農地における出没数が減少する効果が見込める。減少により、野生鳥獣被害は減少する。また、緩衝整備の効果を住民に普及できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

山林地と住宅地や農地の林縁部の除伐を行うことで、野生鳥獣が潜む場所が無くなり、人里に近づきにくくすることができた。

(2) 課題

適正な管理を行わなければ、原野化してしまう恐れがあるため、今回実施した部分的な伐採地について、広葉樹を植栽し、下草刈りなどを行いながら継続的に管理を続けたいと考えている。森林組合との委託契約などについて土地所有者へ理解を求めながら進めたい。

(3) 今後の取組方向

今後も場所を選定しながら、緩衝帯整備を継続していきたい。

事業を現行どおり継続する

令和元年度～令和5年度 15ha

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない